

平成27年度決算について

1. はじめに

国立大学法人は、国民の皆様に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自らの状況を客観的に把握する観点から、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、利益の処分（損失の処理）に関する書類、キャッシュ・フロー計算書、国立大学法人業務実施コスト計算書等）の作成及び公表が義務付けられています。

このたび、平成27事業年度財務諸表につきまして、平成28年6月28日付けで文部科学大臣の承認を受けましたので、ここに公表いたしますとともに、決算の概要について説明いたします。

2. 決算の概要

①財政状態

平成27年度末現在における資産の合計は、前年度比774百万円減の28,793百万円、また、負債の合計は、前年度比808百万円減の9,426百万円となっております。

資産の減少の要因といたしましては、有形固定資産の取得額がその減価償却額及び除却額による資産のマイナス額を下回ったことによるものです。また、負債の減少の要因といたしましては、運営費交付金の計画的な執行により運営費交付金債務が減少したこと、及び大学用地一括購入のための借入金の返済により長期借入金が減少したことによるものです。

②運営状況

平成27年度の経常費用は、前年度比214百万円増の8,380百万円、経常収益は、前年度比303百万円増の8,473百万円となっております。また、経常収益から経常費用を差し引いた経常利益に、臨時利益及び目的積立金取崩額を加えた当期総利益は164百万円となっております。

費用の増加の要因といたしましては、教職員数の増加と、年俸制を採用した教員の増加に伴う人件費の増加によるものです。また、収益の増加の要因といたしましては、運営費交付金の計画的な執行による費用の増加に対応し、運営費交付金収益が増加したことによるものです。

また、当期総利益のうち経費削減等の経営努力によって生じた分につきましては、文部科学大臣の承認を受けたのち、前中期目標期間目的積立金として計画的に活用いたします。

3. おわりに

本学は、これらの財務状況を踏まえ、業務コストの削減や外部資金獲得に向けた体制の整備等を行っていくことによって教育経費や研究経費等を確保・充実させ、教育研究活動の成果を社会に還元して参ります。

今後も、健全で戦略的な大学運営及び教育研究の質の向上に努めて参りますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学理事（財務担当）・事務局長
中 島 潔